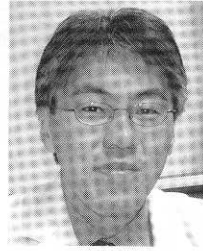


常に「お手伝いする」という真摯な気持ちを忘れずに

# ホスピス開設後、半年が経過して

福德 雅章 医療法人敬仁会函館おしま病院理事長・院長



ふくとく・まさあき 昭和三十六年函館市生まれ。  
金沢医科大学卒業後、同大学血液免疫内科助手や同大学血液センターの副部長を兼任。  
平成十年には栄光病院(福岡県)に勤務。平成十四年一月から函館おしま病院(旧渡島病院)に勤務。同年二月より同病院の理事長・院長に就任。現在に至る。  
日本内科学会、日本血液学会、日本臨床血液学会、日本リウマチ学会、日本緩和医療学会、日本サイコロソロジー学会、日本死の臨床研究会、日本シエーグレン症候群研究会

●ホスピスを開設して  
四月に正式に認可を受け、二〇床のホスピス(緩和ケア病棟)としてスタートしました。

色々な場でホスピスについてお話をする機会を頂きながら準備を進めていたとは言え、函館市におけるホスピス認識やニーズというものがあったのくらのいなのか、という手探り状態でのスタートであり、また看護スタッフはほとんどがホスピス未経験者ということもあり、試行錯誤しながらの運営となりました。しかし、お蔭様でニーズが高いということは分かり

ましたし、また少しずつ医療者から一般の方まで、ホスピスの認識が広まっていることが実感できるようなっています。

## ●函館おしま病院ホスピス

病院らしくない、ホテルのようでもない、家庭的なイメージを表現したいと思いました。木の香りやぬくもりを感じるように、できるだけ素材も木を使い、色調も木目調を多く使っています。

一階には談話室、喫茶(バー)コーナー、家族室二室、面談室、暖炉、家族浴室があります。談話

室は、患者様とご家族の交流の場でもあり、また季節の催しやコンサートなどに利用しています。その一角にある暖炉は、人知れずほっとできる癒しの空間として設置しました。ホスピスでは各病室で

患者様と一緒にご家族も泊まることができますが、人数の多い場合や、病室内ではゆっくりと休めない場合に、家族室を利用して頂いています。家族浴室は、自立している患者様、またご家族と一緒に入りたい方、宿泊されたご家族が利用しています。二階が病棟となります。二〇室

全室が個室(十室は差額室料有り)です。病棟内にはミニキッチンを設置し、ちょっとした手料理をつくれるようになっていきます。チームステーションは、完全オープンになっています。スタッフ同士での会話は少しボリュームを落とさねばなりません。患者様やご家族からは気軽に声をかけられると、結構好評でもあります。なるべく

患者様・ご家族とスタッフとの垣根を取り払いたいと思い、オープンとしました。病室内はヒバ材の腰壁があり、全室にウォシュレット付トイレ、テレビ、冷蔵庫、シャワー付洗面台、電動ベッド、室内調節冷暖房、インターネット回線を設置しています。付き添われるご家族の方には、ソファベッド、畳台、簡易ベッドなどをお貸ししています。また、酸素や吸引のパイプがむき出しにならないようにしたり、ピクチャーレールを設置したりと、病室というイメージをなるべく取り払うようにしています。

## ●スタッフの育成

ホスピスで働いた経験者は当初、私、看護師三名(うち一名は今年、ホスピスケア認定看護師の資格取得)でした。それまで、約一年前からスタッフ用と院外にも発信す



るホスピス勉強会を開き、学びの場を持つてきました。特に看護師は、一般病院での経験者がほとんどで、戸惑いが大きかったようです。まず、チームがぶつかった壁は、それまで経験してきた急性期医療でのケアとホスピスケアとのギャップでした。どうしても身

お誕生会でのワンショット。その時だけの大切な感動がそこにあります。

体的な側面にだけ目が行きがちで、精神面その他の側面からのアプローチが希薄になってしまい、またご家族のケアも十分に行き届いていないように感じられました。それは決して特別なことではなかったのですが、多くのスタッフはその必要性は理解できていても、ど

のようにアプローチしていけばいいのか、難しかったようです。

しかし、これらの問題は時間と経験が少しずつ解決しているようです。院内勉強会はもちろん継続的に行い、外部研修会にも積極的に参加していますが、その他、チームの中で話し合いの時間をとにかく多く持つようになっています。

毎朝の申し送りには、看護スタッフ以外に、なるべく医師、MSWも参加するようにして、意見交換をしています。また、週一回はその他の職種も交えてカンファレンスを開き、テーマを絞って、話し合うようにしています。

特にホスピスでは、患者様の身体的な部分はもちろんですが、精神面、社会面、さらにスピリチュアルな部分まで焦点を当てて、考えていかねばなりません。その場で答えがみつからない場合も多いですが、チームでの目標をなるべく統一できるようにしています。ここでは、決して、医師の方針で物事が進むのではなく、患者様やご家族を中心として、チーム全体で考え、方向性を打ち出していきます。

ある時、患者様やそのご家族と本当の親子のような信頼関係を築きながら、スタッフの中でもキーパーソンとなり得た看護師がいました。また、ある時には、患者様

が亡くなられた直後に、そのご家族に一時間以上も寄り添い、色々な思いを傾聴したことで、後に大変感謝された看護師もいました。いつ食べられなくなるかもしれない患者様のために、休み時間を削ってランチタイムを企画して、楽しいひとときをプレゼントした看護師もいました。こんな関わり一つ一つを通じて、私を含めて、患者様やご家族に教えられながら成長しているチームが今あるのだと思います。ようやくホスピスのチームらしくなったと正直喜んでおります。もちろん、まだまだ発展途上中ですが。

### ●ホスピスでの日常

私たちがホスピスを開設した時のコンセプトは、「お家にいるような、家庭的な温かいぬくもりのあるホスピス」でした。それは、残念ながら入院せざるを得ない患者様が私たちのホスピスで少しでも心身ともに安らぎを感じていただけることが目標でした。

ホスピスは基本的には、患者様やご家族のニーズにお応えすることが重要です。たとえば、一般病院では入浴や食事、また外出・外泊が止められていたとしても、私たちのところではいずれも可能だということです。医学的な見地から、医療者側の判断だけで、ケア

を考えていくことはしません。晩酌をしたほうが眠れるという方には飲酒も許可していますし、どうしてもベットに会いたいと言われれば、病室内で面会して頂いていきます。もちろん、ご家族の面会も二十四時間可能です。

誕生日会、その他の記念日があれば、お祝いをご家族とともに行い、また季節の催し（お花見会、七夕会、お月見会など）なども企画して、少しでも皆にとって思い出となる時間を演出しています。

また、今は週一回休みの日の午後、スタッフが院内ボランティア活動として、喫茶コーナーを運営し、入院患者様やご家族の方にコーヒー、紅茶、お茶やかき氷などをお入れし、談話室と一緒に過ごしたり、病室にお持ちしたりして楽しんでいただいております。こうして、ほんのひとときでも病気を忘れることのできる楽しい時間を共有し、コミュニケーションを深めるよう努めています。

●患者様とのかかわりの中で  
今までに三〇数名の方が退院されました。うち三名は在宅に戻りました。多くの方がここに来てほっとした、良かったと言ってく

ださり、私たちもその言葉に癒されました。残念ながら亡くなられた患者様のご家族には、スタッフからお便りを出したりして、その後にもかわわりを続けるようにしています。中には、毎週開いている喫茶コーナーに合わせて来院される方もいらっしゃいます。このような場を通じて、少しでもご遺族の方の心の支えになることができれば、と思っています。

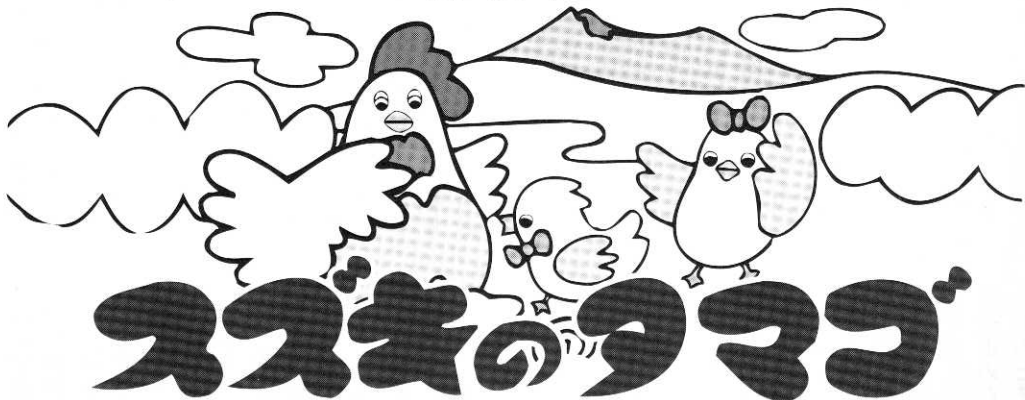
### ●今後について

まだまだ、自分たちでも理想的なホスピスであるとは思っておりません。時には患者様やご家族より厳しい意見も頂くことがあります。これからも勉強会、研修会などを通じて自己研鑽に努めるとともに、常に「お手伝いする」という真摯な気持ち忘れずに、ホスピスのこのころを持って、診療、ケアにあたっていこうと思っています。

また、今後はボランティアの方にもチームに加わっていただくようにも思っています。道南・生と死を考える会」の協力を受けながら、今準備を進めております。少しずつ、チームに厚みができると同時に、ケアの質の向上に努めたいと思っております。

## 健康家族の安全・安心

純産直



健康と安全にこだわる卵は

1. エサは全て自家配合!安心です。2. 鶏舎は自然にかこまれた開放型3. だからおいしい!!自然の味!

卵に関するご質問は  
お気軽にどうぞ!

(株)鈴木農園

函館市宇賀浦町9-7 TEL.0138(55)3358